

プレカット ニュース

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

新年のご挨拶

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会
会長 原田実生

新年明けましておめでとうございます。輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、会員の皆様方には、常日頃、当協会の事業運営に格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の我が国経済は、雇用・所得環境の改善や株価の安定などを背景に、景気回復基調が戦後3番目の長さになった可能性があるといわれていますが、個人消費はやや力強さに欠け、物価についてもデフレ状況にはないものの、デフレを脱却し、安定的な物価上昇が見込まれるところまでには至っていないようです。

このような状況下、住宅投資も持ち直しを続けているとされていますが、昨年の住宅着工の動向については、住宅ローンの低金利効果や相続税の節税対策による着工が落ち着き、前年比で微減と予想されています。先行きについても、当面、横ばいで推移していくものと見込まれていますが、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響により、景気の先行きには留意する必要があります。

このような中で、昨年のプレカット加工業の業況をみますと、地域差はあるものの全体的には堅調な住宅着工を背景に年間を通して繁忙感に追われた年だったと言えるのではないのでしょうか。一方、木材利用に関しては、国産材資源の充実を背景に、公共建築物への木材利用の推進など各般の積極的な政策を受け、各地で中大規模木造建築物の大型商業施設や公共施設等の建設が促進されるなど、これらの動きがプレカット加工業においても、新たな需要分野として期待されています。

当協会ではプレカット加工業に対する技術支援の取り組みとして、平成24年度から「プレカットCAD技術者認定登録」を実施しています。昨年までに全国の会員内外工場の延べ353名に認定登録をしていただいています。これらの工場においては、認定技術者の存在が各プレカット工場の優れた加工技術レベル向上の新たな証、として活用されているところです。今後は、プレカット加工率が9割を超えている状況と少子高齢化等を背景とした新設住宅着工戸数の漸減傾向への対応として、一般流通材を利用した施設系中規模木造建築物等のプレカット加工図作成に当たって必要となる木質材料、木質構造、関連法規等について研修内容に加え、新たな需要への対応能力の向上に努めて行くこととしています。

一方、業務支援としては、合法木材供給事業者認定等による違法伐採対策の推進を図るとともに、全国住宅プレカット部材共済会が実施するプレカット部材瑕疵保証事業に加えて、公共建築物等木造利用促進法の施行により、地域材のプレカット部材を利用した施設系木造建築物が増加している関係で、プレカット工場の賠償リスクを担保する「プレカットミス賠償責任保険制度」を構築し、運用を開始いたしました。

これらを通じて、安全・安心な住環境の創造で顧客満足の得られるような木造建築物の提供に協会員がお手伝いできることを願っています。

本年が住宅産業・木材産業にとって飛躍の年になり、そして皆様方にとって素晴らしい一年となりますようご祈念申し上げますとともに、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。



第52回全国木材産業振興大会奈良大会開催される

— 木材の復権への決意を新たに 宣言決議を採択 —

第52回全国木材産業振興大会は、平成29年11月9日に「～人にやさしい木の文化と社会をめざして～」をメインテーマに掲げて、奈良県奈良市の「なら100年会館」において、全国から750名参加のもと開催されました。来賓として牧元林野庁次長、長谷川国土交通省住宅局住宅生産課長、福谷奈良県農林部長、仲川奈良市長など多数のご来賓が出席され、祝辞を述べられました。

大会の第一部では、①森林環境税の実現、②大幅な木材利用拡大運動の推進、③木材産業振興のための予算確保・税制措置の継続、④木材利用を創出する技術開発・普及等、⑤東京オリ・パラ関連施設への木材利用拡大、⑥JAS等製品の木材供給や人材の育成確保等の大会宣言が満場一致で決議されました。また、平成26年に行った全国森林組合連合会との「ウッドファースト社会」の実現に向けた共同宣言」に続き、27年は（一社）日本林業協会、（一社）日本林業経営者協会、28年には全国素材生産業協同組合連合会、さらに本年は（一社）全日本木材市場連盟も加わった6団体で、「森林・林業の再生に向けた共同行動宣言2017」を創案し、「木材利用の拡大なくして森林・林業の活性化は成しえない」との認識のもと、川上、川下の関係者が一体になって、森林環境税の創設、木材利用の拡大、「伐って、使って、植えて、育てる」などの持続可能な森林経営の基盤確立に取り組むための行動宣言が10月27日に行われたことが、今大会で報告され、満場の賛同を得られました。

また、第二部においては、薬師寺管主の村上太胤氏を講師として「奈良仏教と樹の文化」と題した記念講演が行われました。

第三部の表彰式では、退任団体長、木材産業功労者、協同組合事業功績者等それぞれの表彰が行われました。

プレカットCAD技術者認定登録状況

(平成29年12月1日現在)

研修受講 年度	認定級別	東京会場		名古屋会場		大阪会場		合計	
		認定者 (人)	うち会員工場 に所属する者	認定者 (人)	うち会員工場 に所属する者	認定者 (人)	うち会員工場 に所属する者	認定者 (人)	うち会員工場 に所属する者
24年度	2級	34	19	21	8	25	9	80	36
25年度	1級	17	9	-	-	-	-	17	9
	2級	21	12	21	8	16	3	58	23
	3級	4	1	1	1	2	0	7	2
26年度	1級	2	0	-	-	-	-	2	0
	2級	46	27	37	16	-	-	83	43
	3級	4	3	2	0	-	-	6	3
27年度	1級	3	2	-	-	-	-	3	2
	2級	29	12	23	11	-	-	52	23
	3級	4	2	4	2	-	-	8	4
28年度	1級	7	3	-	-	-	-	7	3
	2級	27	13	-	-	-	-	27	13
	3級	3	1	-	-	-	-	3	1
合計	1級	29	14	-	-	-	-	29	14
	2級	157	83	102	43	41	12	300	138
	3級	15	7	7	3	2	0	24	10

注) 会員欄はH29.6時点での会員工場所属者数

協会会員工場基礎調査結果について(第4回)

－ 年間総生産量・AQ製品生産量調べ －

調査対象年月：平成28年12月
調査対象工場数：42工場

	10,000坪未満	10,000坪以上 20,000坪未満	20,000坪以上 30,000坪未満	30,000坪以上 50,000坪未満	50,000坪以上	合計
総生産量 (単位：100坪)	47、79、80	110、112、 180、125、 187、130、 150、190	220、228、 265、263	395、402、 350、488、 368、310、 360、414、 480、464、 416、480、 318、420、 300	2,570、525、 786、849、 1,406、1,200、 750、517、 666、860、 1,674、1,510	21,644
平均	68.7	148.0	244.0	397.7	1,109.4	515.3
(前年平均)	(62.0)	(144.6)	(251.5)	(404.1)	(1,209.4)	(607.9)
AQ製品生産量 (単位：100坪)	0、63、0	80、0、0、 0、14、0、 0、0	0、160、0、 69	0、0、0、 422、0、0、 0、0、0、0、 0、0、0、0、 0	0、0、57、0、 317、0、0、0、 666、100、0、 275	2,223
平均	21.0	11.8	57.3	28.1	117.9	52.9
(前年平均)	(0)	(23.1)	(49.0)	(77.1)	(85.0)	(64.9)
AQ製品生産比率	30.6%	8.0%	23.5%	7.1%	10.6%	10.3%
(前年AQ製品 生産比率)	(0%)	(16.0%)	(19.5%)	(19.1%)	(7.0%)	(10.7%)

◇簡単なコメント

(1) 会員42工場を対象とした調査によると、平成28年の1工場当たり年間平均生産量は、51,530坪で、1棟当たり40坪換算で、約1,290棟に相当し、前年の平均生産量に比べると、15%の減少になっている。これは、プレカット工場の加工設備の増設や更新が引き続き進んでいることや各工場の活発な受注活動に反比例した数字となっている。階層別に見ると、20,000坪以上のクラスで減少し、20,000坪未満の小規模クラスで平均生産量が増加している。

前回回調査までは、各工場の生産能力の増大により生産量の階層別に見た工場数は上位の階層にシフトする傾向が見られたが、今回の調査でもその動きは顕在化していない。

(2) 総生産量に占めるAQ製品の生産比率は10.3%で前年に比べて0.4ポイント下落した。階層別にAQ製品の生産比率を見ると、中堅クラスのプレカット工場において、従来のように、消費者ニーズに直接応えたAQ製品の生産が続いていることがうかがえる。しかしながら、今回の調査では、AQ製品の生産に取り組む会員工場は11工場と前回調査と同数で調査対象工場の3割に満たない状況である。今後、より一層の性能・品質の高い住宅供給のためには、まずは、AQ製品生産に取り組む会員工場の増加が喫緊の課題といえる。

プレカット業況調査(平成29年11月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率:49%)

設 問	回答率 (%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	49	42	9	+ 40	+ 26
1-2 3ヶ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	3	45	52	-49	- 2
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答:6,020円(対前回調査±0円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	6	94	0	+ 6	- 9
3-2 3ヶ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	12	79	9	+ 3	+ 3
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2) 変わらず (3) 困難	0	66	34	-34	- 12
4-2 3ヶ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2) 変わらず (3) 困難	3	69	28	- 25	- 38
5-1 今月の収益は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	24	58	18	+ 6	- 2
5-2 3ヶ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	62	38	- 38	- 11

* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査:平成29年8月

◇簡単なコメント

11月の各設問のDIをみると、受注額はかなり好調を維持しており、収益についても改善してきている。3ヵ月後についての受注額はこれまでが好調のピークにあると判断されているのか、今後はほぼ同数の会員が悪化すると予測している。これに対して、加工単価については大半の会員が変わらざる状況であり、3ヵ月後についてもほぼ変動がないと予想している。また、資材の入手環境は、依然として困難な状況にあり、今後も厳しい予想となっており、3ヵ月後もタイト感が続く見通しである。今後とも、現在の受注額と収益が維持されることを期待したい。

1. 受注額のDIは+40で前回調査時(平成29年8月期)に比べて、かなり好転しており秋の需要期を反映している。また、3ヵ月後の予測のDIは-49で現状の反動とも思われる予想をされている。今後とも、予想を覆すような業況の維持と活性化を期待したい。
2. 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは+6とやや上がっているものの大半の会員は変わらざる状況となっている。平均総加工単価も6,020円と3ヵ月前と比べて変化はない。3ヵ月後の製品加工単価のDIは+3であるが、加工単価の上昇はそれほど期待出来そうにない現状にあるといえる。
3. 資材入手状況のDIは-34でタイト感は益々強くなってきている。3ヵ月後の予測のDIは-25(前は-38)であり、この困難な状況は続くものとみられる。
4. 3ヵ月前と比べた今月の収益のDIは+6と若干の上昇がみられている。前回調査時の3ヵ月後の収益予測が-2であったにもかかわらず、若干の改善となっているが地域等による格差が見られている。さらに、3ヵ月後の収益予測は受注額の反動減と同じく-38と、かなり厳しい先行き予想となっている。